# 令和３年度第１回御前崎市移動教育委員会

日時：令和３年 11 月 26 日（金）
午前８時 58 分～10 時 53 分
会場：浜岡中学校メディアスペース

1. 開　　会

2. 挨　　拶

3. 報　　告（学校図書館司書）及び意見交換

御前崎市における子ども読書活動の現状と課題について

4. 全体意見交換

5. 閉　　会

出 席 者　教 育 長　河原﨑　全
教育委員　竹田和世、島田惠美、松林義樹、野口智美、増田克之、原崎志保
学校図書館司書　杉山淳子、中嶋芳乃、馬渕貴子、森田彩子

事 務 局　教 育 部 長　長尾詔司、　図　書　館　長　西郷成美
学校教育課長　鈴木秀和、　社 会 教 育 課 長　小野田明人
教育総務課長　髙田和幸、　学校教育課指導主事　澤入朋美
教育総務課補佐　栗林正和

欠 席 者　なし

○髙田教育総務課長
　おはようございます。定刻より若干早いですが皆さんおそろいですので、始めさせていただきたいと思います。ただいまから、令和３年度第１回御前崎市移動教育委員会を始めます。最初に互礼を交わしますので、御起立ください。お願いします。御着席ください。
　今回の移動教育委員会は、学校図書館司書から、各学校の子供読書活動の現状と課題について報告をいただき、教育委員様から御意見をいただきながら子供読書活動の一層の推進を図っていくことを目的に計画させていただきました。よろしくお願いいたします。今日の会の進め方でございますが、各学校から各学校の読書に対する取組、現状と課題について、各司書から説明があります。委員さんからは、御質問等がありましたらその都度お聞きいただきたいと思います。学校ごとに７校分、最後まで説明させていただいて質疑応答の後に、各委員さんから御意見をいただきたいと思います。そのような形で進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。次の定例の教育委員会及び、組合の教育委員会もありますので、予定時間を 10 時 30 分終了という予定でおりますので、御協力をお願いします。本日は浜岡中学校のメディアセンターの視聴覚室を使用して、この移動教育委員会を計画させていただきました。会場校の長谷川校長もお見えになっておりますので、一言、御挨拶を先にいただきたいと思います。よろしくお願いします。
○長谷川校長
　おはようございます。本日は、本校会場ということで、日頃から本当に市内の園小中そして浜岡中学校の教育活動に、御理解御協力をいただき、本当にありがとうございます。一言挨拶ということで、時間をいただきましたので本当に短くということを、高田課長は思っていると思います。そこに、１枚資料を準備しました。昨日の４時間目にとった資料で、まだ全員そろっていませんが、２学期の生徒のアンケートということで、結果のほうを出しました。学校が楽しい 95%を目指しましたが、残念ながら 92.2、授業の内容が分かる、90%を目指しましたが、88.3、主体的に事業に取り組むが 93.9 ということで、４％ほど、信頼できる先生がいる 90%が、87.3 みんなで何かをするのが楽しいというのが 94.6 ということで若干届かないものもありますが、概ね昨年度そして１学期に比較して、向上しているなと感じています。これも、本当にすばらしい校舎を建てていただいたおかげかなというふうに思っております。まだまだ届かないものについては、３学期ありますので、そこの中で、指導を重点的に行ってまいりたいなというふうに思っております。不登校が、現在 18 名、3.3%です。昨年は５％でしたので、今年の目標は４％以内ということで、今のところはその数字ですが、３学期に徐々にまた徐々にというか、週１回ずつ休んでいくと、年間 30 日になってしまう子たちが、５、６人いますので、ひょっとしたらぎりぎりかなと思っています。そういったことがないように、今後、職員一同、子供達と寄り添った指導をしていきたいなと思っています。本日は半日になりますけれども、よろしくお願いします。
○髙田教育総務課長
　ありがとうございました。それでは、最初に、教育長から御挨拶をいただきながら、説明もあるということですので、よろしくお願いします。
○河原﨑教育長
　改めまして皆様方おはようございます。早朝よりお集まりいただきましてありがとうございます。また、学校図書館司書３人の方、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。また、アスパルから浜岡中学校の図書館のお世話をしてもらっています。ありがとうございます。私もこの市教委でお世話になって３年半になりますけれども、年に２回ぐらいですけれども、各学校の学校図書館を回らせていただいておりますけれども、本当にこの３年半で変わってきたなということを実感しています。細かいところまで見るわけではありませんけれども、やっぱり入ったときの印象とか、子供たちの利用の具合、そういうところからも本当に学校図書館司書の方が、日々頑張ってくれているおかげで、学校図書館が少しずつ、活発になってきているのではないかなということを実感しています。今日は、そういう中で、皆様方にも、教育委員の皆さんへ、今こういうような状況ですよ。良いこともありまた課題もあると思いますので、こういう機会ですので出していただければありがたいなと思います。私の挨拶は普通ならこれで終わりなのですけれども、ちょっとその前に、司書の皆さんのお話の前に市全体の読書の今の状況について、簡単にお話をさせていただきたいと思いますので、若干お時間をいただきたいと思います。着座に

て失礼します。皆さんの机上のほうにも資料を配付させていただきましたけれども、読書、読み聞かせ、いろんないいことがあるよということを言われていると思いますが、私があえて言うまでもなく上段に書かせていただいたようなことが、本と親しむことによって子供たちに身につきますということをよく言われています。今年の８月に国立青少年教育振興機構から出された、子供の頃の読書活動の効果に関する調査研究でも、概要ですけれども、子供の頃に読書した人が意識、非認知能力と認知機能が高い傾向がある。特に真ん中ですけれども、いろんな読書のツールがありますけれども、本、紙媒体の本で読書している人は、意識とか非認知能力が最も高い。また、興味関心に合わせた読書経験が多い人ほど、小中高通した読書量が多い。小中高で読書量が多いと大人になっても、本と親しむ機会が多いというような傾向があるということです。これは全国の傾向ですけれども、読書の実態として、今年度、５月、１か月間でどれくらい本を読みましたかという、毎年、毎日新聞社が行っている全国学校読書調査があります。小４から６、中１から３、高１から３の抽出になっていますけれども、それで見ますとひと月で小学生が 12.7 冊、中学生が、その半分の 5.3、高校生が 1.5 冊ということで、小学生は読でいるのですけども、上に行くに従って、いろいろやりたいことも出てくるのかなとも思うのですが、減っているのが現状です。また、不読者、１冊も１か月間読まなかったという子供たちもこれくらいいて、特に高校生、半分は、ひと月で何も読んでないというような実態があるものですから、やはりこの辺の大きな課題かなというふうに思います。また、先ほどのスライドで出した子供の頃の読書活動の調査研究の中で、子供に限らず大人でも本を読まない人が増えているということで、平成 25 年と平成 30 年を５年間で比較すると、平成 25 年には、１か月に本を１冊も読みませんよという人が約３割だったのが、平成 30 年、５年後にはもう５割になっているということで、子供、小学生くらいは読んでいるのですが、高校生がだんだん読まなくなって、大人も同じように読まなくなっているという傾向もあります。ただ一方で、スマホとかタブレットによるそういう読書は、爆発的ではないのですが、少しずつ増えているという傾向があるようです。当市のほうの子供たちの現状はということですが、これを今年の全国学力学習状況調査の数値からですが、平日１日 30 分以上、読書しますよという子が、小６で３割、中３でも３割、両方とも約 30％です。括弧の中が、全国値ですので、小学生のほうが若干少ないかなというところが言えると思います。今日、この後、主となります学校図書館のほう、小学校のほうですけれども、貸出し冊数、年々増えています。４年前は 10.5 冊だったのが、昨年度は 27.6 冊ということで、３倍近い伸びになっていていい傾向だなと思っています。ただ、全国で見ますと、学校図書館の現状に関する調査、昨年度の数値で見ると、全国平均では小学校が、49 冊、中学校９冊、高校３冊ということですから、まだまだ頑張れる余地があるのかなと思っています。あと、アスパルの利用状況なのですけれども、これを見ていただいても、中高生が１番低くなっています。利用状況、貸出し冊数で見て 3.7％ということで、多いのが 60 歳以上の 33％ということで圧倒的に多いですけれども、中高生が少ないということと、あと、未就学の 4.5 は、これは少ないかなと思うのですがその親の世代である 20 代も少ないので、子供を連れてきて、親のカードで本を借りるという人も余り多くないのかなというところが、見られます。ちょっと離れますけれども、これは既に皆様にもお伝えしましたが、一方で、電子メディアとのかかわりというのは、当市の子供たち、全国平均よりかなり高い数値になっているので、このあたりも、本とのかかわりで見たときに、大きな課題になってくるのかなと思っています。そのために市として、どのようなことをしているかということですけれども、今年度４月に改定した、市の教育振興基本計画の中では、子供が育つ基盤づくりを進めますということで、人としての根を養うための市の特色を生かした教育の推進、その中に、子供たちが本と親しむまち御前崎を目指し、図書館、園、学校、ボランティア、家庭が連携して読み聞かせ読書を推進し豊かな心を育みますという一文を入れてあります。そして、今年度の市教委の重点取組にも、読書読み聞かせの推進を昨年度に引き続き入れています。また、昨年度４月に策定した子供読書活動推進計画、第２次ですが、こちらについてもつくり直しをしていただいて、市立図書館を中心としていろんなところが連携して読書推進をしていきましょうということで計画をつくり、アスパルが中心になってその進捗状況等、会議をしてくださっています。やはり、こういう計画の中に入れるということが、何か根拠があるのかと言われたときに問われるので、まずは計画に入れることが大事なのかなと思っています。現実に子供たちの読書環境としてどういうものがあるかということですが、まずアスパル。皆さん御存じのように、大変たくさんの本がそろっていて活動は充実していると思います。サービス指標、よく使われるのが、人口１人当

たりの資料費あとどれくらい本があるか、どれくらい貸出しがされているか、職員１人当たりどれくらいの人口を抱えているかということなのですが、上の３つは県で１番です。断トツに１番です。専任職員１人当たりの奉仕人口というものが２番なのですけれども、県下ではトップクラスのサービス状況だと思っています。また、なかなか、文化的施設の少ない、当市にとっては、その中心かなと思います。ただ、弱点は１館しかなく分館がないので、なかなか行きづらいと。特に、子供たちは車の運転等出来ませんし公共交通機関もありませんので、親に連れていってもらわないとならないという弱みがあると思っています。そのアスパルですが本の貸出しだけではなく子供読書の推進についてこのような、様々な活動を行ってくれています。学校図書館等へも、出向いてくださっていますし、園のほうで読み聞かせ等を行ってくれています。昨年度はアスパル文学講座ということで宮西達也さんの講演会を行いました。お客さんが少ないですが、これはコロナ対策で間をとっていた関係があります。今年度は来年の１月 22 日に、山村浩二さんという方の講演会の予定をしています。園ですけれども、子供たちが本と出会う１番最初の場になるので、園のほうにも読み聞かせをお願いしていまして、今毎日、全園児に、先生方等を中心にして、読み聞かせを行っています。先生方だけだと大変なので、子供読書アドバイザー後ほど説明をします。あとボランティアの方、アスパルの職員の方にも、出向いていただいて、お手伝いをしていただいています。また先生方が保護者の方に、読み聞かせって大事ですよということをお話していただいています。あと、学校教育課でアプローチスタートアップブックという就学支援雑誌を出していますけれどもその中にも、親子読書、の有用性と、あと、こういう本がいいですよという本の紹介もしております。今少し申し上げた子供読書アドバイザーというものなのですが、これは県の社会教育課が育成をしている、読書推進のためのリーダー役の人です。市内に４人の方が現在いらっしゃいます。今日お見えの馬渕さんもその１人です。どんなことをされているかというと、先ほど申し上げたように、園とか小学校とか子育て支援センターで読み聞かせを行ったり、親御さんにアドバイスをしたり、というようなことをされています。ただ、なかなか存在が知られていないというのと、どこに問合せをしていいかわからないということが、これからの課題かなと思っています。アドバイザーの方は子育て支援センターで読み聞かせをされています。あと、ボランティアグループが市内にありますがそのボランティアグループの研修会での講師等も行っていただいています。次に、学校図書館の方、こちらについてはこれから、この後、学校図書館司書の方が、お話をしてくださいますので、全体のことだけになりますけれども、市内７校の今の学校図書館の状況です。広さについてはもう、これは、でき上がっている校舎の中のことなので、なかなかどうしようもないところがあるのですけれども、やっぱり、狭くて、大変だなという、学校も幾つかあります。蔵書冊数については、右側に図書標準冊数、これは学校規模に応じて、学級数に応じて、これくらいの蔵書が必要ですよという国の決めですけれども、大体クリアしているのですが、北小学校と浜岡中学校が少しその基準に差があるかなというところです。ただ、蔵書冊数も古い本ばかりたくさんあれば良いというものでもないものですから、やっぱり若干少なくても新しいほうが揃っているほうが子どもたちにとっては魅力があると思いますし、一概に数だけでは言えないのですけれども、一応こんな状況になっています。図書館司書の方ですが、最初は 2018 年まではお２人でした。２人で７校回ると、１週間に１日しか回れないという学校がありました。そこで 2019 年からは浜中が改築の関係で閉まったものですから、６校で３人ということで、お１人で２校を担当していただくような形にしました。今年度から浜中がオープンして浜中にはアスパルの森田さんにおいでいただいていますので、７校を４人でというような形になっているものですから、１つの学校に週最低２日は勤務をしていただいている状況になっています。あと図書購入費なのですが、これ今年度の状況です。うちの市は、園は園児１人当たり 2,000 円という決めで、子供未来から確保しています。小・中学校は御覧のとおりです。で、菊川・掛川については市のホームページの予算書からとって計算したのですけども、一応こんな状況になっていまして。牧之原市は、山﨑財団から、かなり寄附があるということですから、ちょっと数字的に比較出来ないものですから入れてございません。今後の学校図書館なのですけど、大きな役割としては、読書センターと、あと子供たちが自分で学ぶ、調べる学習情報センターの二つの大きな役割があると思います。大事なことは、各学校で教育計画に学校図書館を位置づけていただくということと、諸教育、学校図書館担当の先生方と、今日お見えの学校図書館司書の方を中心として全校的に展開していけるというのが１番いい形だなと思うのですが、なかなか学校も忙しいということがあるものですから、全校的な展開にならない学校もあるかと思うの

ですが、理想としたら、誰かにお任せということではなくて、全職員で学校図書館を活用していくという体制がとれるといいなと思っています。ちょっと順番逆になりましたけども、自主学習の場であり、読書の場であり、あと、浜岡中学校がオープンしてから聞いたのですが、行くところがない子がここに来る居場所になってそれもいいことだなと私は思ったのですけども、やっぱりいつでも開いていて、いつでも使えるということが大事じゃないかなというふうに思っています。今後は、パソコン等も整備されたものですから授業で、本もそうですしパソコンも使いながら子供たちが図書館という場で積極的に自分から学んでいってもらうといいなと思っていますし、授業でもなるべく使ってもらいたいと思います。また、本に関してはなかなか学校図書館ですと資料が限られますので、先ほど挙げたアスパル、30 万冊の本があるものですから市立図書館との連携というのが非常に大事だなと思っています。そういう意味で、今年度、森田さんにも浜岡中学校に入っていただいて、学校図書館と市立図書館の連携を深めていきたいという、私のねらいの中でやってきていただいています。最後になりますけども、全部、読書とか、読み聞かせが楽しいと子供たちが思うと、冒頭申し上げたような効果が出てくると思いますし、読み聞かせをしていると、お父さんお母さんの、読んでいる人も心も優しくなるので、子供たちにとっても、いい影響が出るのかなと思っています。またもう１つは、調べるという行為ですね。図書館を使いながら本を使ったりパソコン使ったりして調べることが楽しいと、自分でどんどん学んでいこうという気持ちも沸いてくると思うものですから、そういう意味でもこの空間を使ってもらえるとうれしいなと思っています。というように読書を中心に行ってきましたけども、子供たちが育つためには読書だけではなくて、やっぱり自然体験活動、実際に自分が動いてみるということとか、１人じゃなくて人とつながる、こういうことも大事だと思っていますけれども、まずは読書に力を入れたいなと私は思います。最後になりますが、浜岡中学校のロータリーに立志の像がありますけれども、立志の像の裏側にこれが書いてあります。少女が１冊の本を抱えて、空を見上げていますけれども、人生の中で何か１冊いい本とめぐり合うと、またその人の人生が豊かになってくるのではないかなと思いますので、ぜひ図書館を活用して子どもたちそれぞれがいい人生を掴んでくれたらうれしいなと思っています。私からは長くなりましたけども、以上です。ありがとうございました。

○髙田教育総務課長

ありがとうございました。それでは早速、学校図書館司書から学校ごとの報告をお願いしたいと思います。一校ごとに質疑を行って、最後に全体を通した御意見をいただければということでよろしくお願いします。では最初に、御前崎小学校、馬淵さん、お願いします。

○馬渕学校図書館司書

おはようございます。御前崎小学校担当の馬淵といいます。御前崎小を担当して、３年目になります。よろしくお願いします。発表は座って失礼いたします。御前崎小学校の令和２年度の貸出し冊数は、年間１人当たり 33.1 冊でした。今日の資料と一緒に、館内写真を提出しました。こちらを御覧になりながらお聞きいただければと思います。御前崎小学校の図書館は、廊下の一角にあります。場所スペースのようなつくりで、壁がないため、空調設備がありません。そのため夏は暑く、冬は寒い図書館です。また、廊下や教室の声や音がそのまま聞こえるため、落ちついて読書ができる環境ではありません。特に、夏の暑さは厳しく、人にも、本にも優しくない環境ではありますが、開放的な作りを生かした展示や掲示をして、子供たちや先生がたに図書館に興味を持ってもらえるように、寄附しています。本を読むのが苦手だよという子供にも、楽しく、図書館に通ってもらえるように、折り紙講座を開催したり、塗り絵やパズル等を準備したりしました。また、読書イベントでは、プレゼントのしおりが大人気です。支援員の先生やスクールサポートスタッフの先生に、しおり作りを手伝ってもらっています。また、地域との連携も積極的に行っています。図書館の飾りづくりを、市内のリハビリ施設、通所リハビリはまおかにお願いしています。季節ごと、すてきな飾りが届き、子供たちにも、先生方にも好評です。同じものをつくりたいという声もあり、毎年のように、子供たちも飾りづくりに挑戦しています。リハビリさんには写真と、子供たちからの御礼の手紙を渡しています。作業療法士さんによると、子供たちが喜んでくれている学校の役に立っているということが、リハビリ利用者の方の励みになっているそうです。市役所の環境課とも、毎年コラボレーションしています。私立図書館アスパルの授業で必要な本の貸出しのほかにも、巡回図書館や、子供たちが作成した作品展示など、年間を通してバックアップをしていただいています。特に今年度は、新しく企画した期間限定シールが

大好評でした。今後の課題というか現状としては、クラスによって図書館の利用や本の貸出し冊数に差があります。また、本をよく読む子と全く読まない子の差があります。１人１台端末となり、今後さらにその差が大きくなるのではないかなと感じています。以上です。
○髙田教育総務課長
　写真とあわせてご説明いただきましたが、何かご質問等ありますか。よろしいですか。それでは続いて白羽小学校、杉山さんよろしくお願いします。
○杉山学校図書館司書
　おはようございます。学校図書館司書の杉山です。よろしくお願いいたします。座って説明させていただきます。資料を御覧いただきながら御説明させていただきます、まず貸出し冊数からですけれども、現在 11 月現在で 18 冊と増えておりまして、順調に伸びている状況になっています。次の括弧ア、多様な読書指導の取組ですけれども、国語の授業の司書教諭との授業支援などを行ったりしております。ブックトークや読み聞かせ、パワーポイントを使ったり、参考資料の提供も行ったりしております。年間を通して、各クラス１回から３回ほど入っております。５年生の新聞の授業まではこのような子供新聞と、一般紙の違いということで比較ができるように記事の提供も行っておりまして、一般紙のほうはアスパルさんの新聞データベースでつくったものを提供させていただいております。先生方の読み聞かせのためのビッグブック、紙芝居など、アスパルから借りて入れ替えをしております。括弧イの読書環境についてですが、季節の本のコーナー、新聞から抜粋した記事を紹介するコーナー、環境さんとコーナー、毎月の図書館クイズ、折り紙教室なども取り入れております。図書館の本の分類なのですけれども、プレートを作成し間に入れて、わかりやすい配架を目指しております。白羽小はちょっと棟が違って図書館を利用する子が、３年生から６年生になりますと本当に利用が減ってくる傾向にあります。ですので、３年生から６年生に、移動教室、移動図書館を行っています。空き教室をお借りして本を並べて貸出しするなどを行います。それから、１階のほうに広場がありまして、国語の教科書の掲載本と必読書を置いていただきますが、こちら特に授業で使う本を集めたコーナーに、現在変更中です。夏休み期間に蔵書点検を行うことが出来ましたので、古い本の蓄積も出来ました。現在は、7,699 冊と、ちょっと先ほどのデータよりは、蔵書数が低くなっておりますが、古い本の除籍が出来たということになります。括弧ウの読書の関心を高める活動ですが、年間を通してスタンプラリーを行っています。20 冊借りると、しおりがもらえるということになっていまして年間を通して行うことによって、途中で諦めてしまう子を出さないという取組になります。それから先ほどの移動図書館とか、読書郵便も行っています。これは、子供たちに大変好評な企画です。括弧エの同世代に発信する読書ですけれども、事業で取り組んだ本の紹介カードの提示、紹介本の貸し出し、先ほどの読書郵便、ベストリーダーや人気の本ランキングの発表を行っております。各校のボランティアですがコロナで中断しておりましたけれども、定期で使っている、このようなイラストを書いてくださるボランティアさん、しおり作成をしてくださるボランティアさん、あと、これから３学期に向けて、装備、修理や掲示物の作成をしていただくボランティアさんを計画中です。他のアスパルですけれども本の貸出し、新聞データベースの利用、親子読書への協力など様々な協力をしていただいいます。以上です。
○髙田教育総務課長
　はい、ありがとうございます。今の白羽小学校の活動、について、御質問等ありますか。よろしいですか。続いて、第１小学校、次の説明をお願いします。
○杉山学校図書館司書
　続きまして御説明いたします。第一小における取組についてですが、先ほどの貸出し冊数の努力目標に対して、11 月現在で 19.8 冊、少しずつ伸ばしているところです。(ア)、多様な特別指導の展開について今年度のブックトークは、やまもも１年生、ひまわり２年生、６年生の各単元で入らせていただいております。読書ファイルも例年の物を使用しておりまして、このようにレベルアップしていくのが楽しい様子です。100 冊で担任の先生から賞状、200 冊から 100 冊ごとに図書室から多読賞として賞状としおりをプレゼントしております。こういったしおりになりました。このしおりをボランティアさんが作ってくださって、多読賞は図書室の前にこのようにホワイトボードで名前を張り出しておりまして、このホワイトボードには読書図書だよりとして、新刊情報、新しいテーマの本を集めたコーナーの情報などをこまめに更新するようにしております。(イ)の読書環境ですけれども年２回の環境課のコーナー設置、ほかにも別コーナーとして季節の本、

課題図書、感想画の優秀作品の展示などをしております。図書室には棚として、学年ごとの国語、教科書の掲載本も棚があります。そこから授業で活用する本の貸し出しもしている状況です。そのほか、分類ごとのプレートもこのように個別につくりまして、探しやすい本棚を目指しております。（イ）の課題の蔵書数についてなんですけれども、先ほどの標準に対して、現在、11 月現在で１万 6,933 冊、4,000 ほどのプラスになっておりますが、本の分類配分比率の標準と照らし合わせますと、調べ学習の本が少し少ないかと思われるので、これから補充をしていきたいと考えております。課題の場所と書架についてですけれども、第一小の棚は６台ありまして高さが 180 センチほどあります。最上段まで使っていますので、低学年の子が使いにくいという問題があります。それからエアコンがついておらず、快適な読書環境にするため、ぜひつけていただきたいと思います。次の（ウ）で読書への関心を高める活動ですが、先生方がお勧めする本として１年生の先生がたに選んでもらった、おすすめ本のコーナーというのを作っております。５年生限定ですが、クロムブックで図書館だよりを配信してもらいました。図書委員さんとの活動としては、昼休みの貸出しなどのほかに、新刊が入るときに放送してもらい、図書委員会の第一小版本つなぎ、アスパルでの展示もしていただきました。今年度は 11 月の読書月間といたしまして、お楽しみ企画をやりました。この様に袋の中に本を１冊、新刊を入れまして、７人限定で当たる。中の本はシークレット、どんな本が当たる）のか、お楽しみという企画をやりました。またやってほしいという嬉しい声が聞こえました。（ウ）の課題の読まれる本の偏りについてですが、多様な本に触れるきっかけの１つとして、このような本のお楽しみ袋を企画しました。きっかけをたくさん増やしていけたらいいと思います。次の（エ）同世代に発信する読書活動への支援ですが、授業で取り組んだ本の紹介のカード、図書室に展示しております。読書郵便はコロナの関係でやっておりません。（エ）の課題の自発的な発信については、読書クラブや図書委員会と協力して、これから発信していきたいと思っております。（オ）の学校のボランティア団体ですが、私が一緒に活動しているのは図書館ボランティアさんになります。毎週月曜日が活動日になりまして、しおりの作成、新刊本の装備、修理、展示物の作成、それから今年は、景品で、このような袋を作って、楽しく一緒にやっていただいています。次に括弧アスパルさんとの連携ですけれども、様々な急なお願いにも快く、迅速な対応をしていただいております。以上となります。

〇髙田教育総務課長

ありがとうございました。第一小の説明ですが、御質問等ありますか。

〇松林委員

はい。１番頭に書いてあるいろいろな学校司書教諭、という先生の名前が入っているのですけど、第一小にはいらっしゃいますか。

〇杉山学校図書館司書

いらっしゃいます。塚本先生です。

〇松林委員

はい。いるということですね。

〇杉山学校図書館司書

はい。

〇髙田教育総務課長

ほかにはよろしいですか。では続いて東小、中嶋司書お願いいたします。

〇中嶋学校図書館司書

おはようございます。学校司書の中嶋と申します。まず東小学校の報告からさせていただきます。座ったままで失礼します。東小学校ですが、昨年度の令和２年度が 35.4 冊の実績でした。平成 29 年度から見ますと、全平均で 13 冊、次の年度が 21.2 冊、34.5 冊、そして昨年度が 35.4 冊ですので、徐々に上がってきております。昨年度だけを見ますと、新型コロナの対策をしながらも令和２年度の一般貸出し冊数は前年度に比べ、少しですが増えています。これは学級担任、それから図書委員の呼びかけによって、来館それから貸出ともに増加した学級が多かったことになります。課題としては、学校図書館への来館それから、貸出しが少ないといったことが考えられます。一斉休校や、それから学校が再開した後の感染安全対策をしながら、活動がかなり縮小されていますので、その中でどのように PR を図っていくかということが課題として挙げられていました。そこで今年は、今までお便りというものは発行していなかったのですが、各学級、それから図書室、図書室前の廊下にお便りを毎月１回発行して、大きく掲示しています。２番目の（イ）

のところですね。学校図書館の読書環境の充実ということで、書体が教科書体とそれから、ゴシック体の２つが混ざっていて見にくいかと思いますが、申し訳ありません。教科書体のほうが、司書がどのような関わり方をしているかということで、ゴシック体のほうが、学校全体として、どのように取組んでいっているかということです。（イ）の取組と効果ですが、まず学校の蔵書システム、学校図書館の管理運営システムは、スクールプロというものを使っております。そこに本を購入したときに本のデータを入れて、そのバーコードの番号がつきますので、そしてできたラベルを本に張ってという作業をして、やっと棚に並べることができるのですけれども、そのシステム自体が、まだ確立されていなかったのです。司書が入る前は、なぜか昆虫の本に９番のラベルが張ってあって、本来であれば昆虫の分類は４なので４のシールを貼らなければいけないのですけれども、９番のラベルが張ってあって。データもこの本のデータのラベルが張ってあるのに、中を見たら全然違うデータが入っている、という状態でそれを１冊ずつ直していくという作業をしていました。昨年、まだ学級に本が置いたままになっていたところもありましたが、全て図書室に移動することができ、スクールプロのデータと実際の蔵書数を一致させることが出来ました。昨年度は国語、それからほかの教科も教科書が改訂されましたので、授業支援の内容も一部変更になりました。休校期間があり、それから調べ学習やブックトークの時間を確保するのが難しかった教科もありましたが、小学校の、特に国語の教科では、図書資料を使用する内容が年々増えています。市立図書館や他校の図書館司書と連携を図って対応していきたいと思います。昨年度末まではこのような反省だったのですが、今年度からクロムブックの導入により、かなり調べ学習の方法にも変化が生じています。それに対してどのように対応していくかというのは日々検討し日々努力しているところであります。次のページ、（ウ）読書への関心を高める活動の推進です。（エ）ところにも重なる部分があるのですが、これは毎年担当される先生、それから年度によっても、委員会でどのような活動をするかというのが変わってきます。丁寧に対応した年は、次の年にその子たちの貸出しが増えたり、あるいは調べ学習に対する意欲が上がったりということが関わってきますので、より丁寧な対応をしていきたいと思っています。（オ）の、ボランティア団体、それから（カ）の市立図書館ですが、皆さんの協力を得て、やっとここまで来ることができたなと思う日々です。今後も、それぞれの立場でできることを考えながら、協力していきたいと思っています。以上です。

○髙田教育総務課長

はい、ありがとうございました。今の報告について質問等ありますか。

○島田委員

読書への関心を高める活動の中で、ビブリオバトルを題材にした本の購入が書かれているのですけども、実際に子供たちでこの活動をということはあるのでしょうか。

○中嶋学校図書館司書

ビブリオバトル自体はしたことはないのです。小学生でまだビブリオバトルというのが難しいということもあって、ビブリオバトルとはまずどういうものなのかという雰囲気が分かる小説の本、物語の本を購入して、読書してもらって、そういうものがあるのだよというのを広めていきたいと思って購入ました。

○島田委員

ちょうど他県でも、小学校中学校でやっているというのを聞いて、御前崎市でもやっていたのか、どんな感じだったかなとちょっと聞いてみました。ありがとうございます。

○髙田教育総務課長

ほかにはいかがですか。それでは続いて浜岡北小学校、報告をお願いします。

○馬渕学校図書館司書

浜岡北小学校担当の馬渕です。北小を担当して７年目、所属校となって３年目になります。北小も資料と一緒に写真を添付してありますので、そちらを御覧になりながら、お聞きいただけたらと思います。令和２年度の貸出し冊数は、年間１人当たり 57.8 冊でした。努力目標の 25 冊を全てのクラスがクリアすることが出来ました。私が北小に入った当時は、本がパソコン管理されておらず、手書きでの貸出しでした。図書館の利用は３年生以上という利用制限もあり、朝と昼休みの貸出し以外は鍵がかかっている状態でした。このような状態から１年半をかけて、蔵書をパソコン管理できるようにし館内の環境を整え、リニューアルしました。その後、司書が増員されて浜岡北小の所属となり、調べ学習のしやすい図書館、みんなが来たくなる図書館、居心地の

いい図書館を目指して、司書教諭や図書委員会の児童と協力して様々な読書活動を展開し、令和元年度には読書県静岡優秀実践校として表彰をしていただくことが出来ました。学校内では、授業での積極的な図書館利用のほかに、読書スタンプラリーや本の紹介ポップ作成など、図書委員会を中心に様々なイベントを行っています。市立図書館アスパルとも連携し、授業で必要な本が定期的に学校に届くようになっています。また、今年度はアスパルと協力して、新しいイベントを企画しました。学校で行っているスタンプラリーにアスパルに行ってみようというミッションがあります。そこで、アスパルに行ったら、カウンターでもらえる限定のオリジナルシールがあれば、ふだん、アスパルを利用しない子供も興味を持ってくれるのではないかと考えました。６月と夏休みに実施してみましたが、多くの子供たちが、アスパルを利用してくれました。ちょうど緊急事態宣言下で遠出が難しい時期と重なり、子供たちの楽しみの１つとなったようです。校外でも、秋の読書週間に合わせ、家族でミッションをクリアしながら、ビンゴ達成を目指す親子読書ビンゴを行い、家庭内での読書活動を推進しています。また、これは御前崎小と一緒ですが、市内のリハビリ施設の皆さんに掲示づくりを依頼したり、市役所の各課と協力してコーナーをつくり展示したりなど、地域との連携も積極的に行っています。このような様々な活動や、図書館の様子を学校ホームページでも発信しています。保護者や地域の方から思っていた以上の反響があり、今後も少しずつですが発信を続けていきたいと思います。令和２年度は、新型コロナウイルス対策として、利用スペースの縮小、学年ごとの利用時間の制限等を設け、司書教諭が図書委員会とたくさん話合い、工夫して活動を進めました。今後ですが、ＧＩＧＡスクール構想の推進によって、徐々に読書に対する関心が低くなるのではないかなという心配はあります。また、事業間休みも 10 分間から５分間に短くなり、児童が本を借りることができる時間が少なくなりました。また、最初に教育長から説明がありましたが、北小の蔵書数が、学校図書館図書標準を満たしていません。これは、文科省から出ている。学級数に応じてこのぐらいの本が、図書館にあると好ましいという１つの目安なのですけれども、今年度北小は支援級が１クラス増えた分、さらに冊数が足りなくなってしまいました。その本が足りない分は、アスパルを効果的に利用して補っています。今後も、地域と連携し、みんなが安心して利用できる図書館になるよう環境を整えていきたいと思います。以上です。

○髙田教育総務課長

はい、ありがとうございました。今の報告について何か御質問ありますか。

○野口委員

はい。図書委員さんとちょっと協力してということで言われたのですけど、結構子供さんからのアイデアとか、こうしたらもっと借りたくなるのではないかということで、すごくよかったよということはありますか。

○馬渕学校図書館司書

スタンプラリーとか読書ビンゴ等のイベントには、ただ本を借りたらスタンプをもらえるだけではなくて、ミッションをマスに入れています。このミッションを子供たちが考えてくれるのですけど、すごくおもしろくて、例えば本のタイトルに、数字が入っている本を借りよう、とか、動物が出てくる本を借りてみよう、あと面白いなと思ったのが、表紙が赤い本を借りてみようとか、ちょっと大人では思いつかないような、面白いミッションを考えてくれています。北小は人数が少ない分、本の購入費もどうしても少なくなってしまうので、新しい本がたくさん買えるわけではないです。で、そういうミッションを設定することによって、今まであった本だけど、なかなか手に取らなかった本を読んでみようとなるきっかけになっているなと思って、本当に子供たちのアイデアとか、すごくいいなと思って、協力してやっています。

○野口委員

はい、ありがとうございました。いろんな種類に触れ、いいと思いました。ありがとうございます。

○馬渕学校図書館司書

ありがとうございます。

○河原﨑教育長

５月くらいですかね、総合的な学習の時間でお米をテーマにして調べ学習をやって、まず図書館にある本で調べ、そこで足りなかったものを次にクロムブックで図書館の中でそれぞれがパソコンを持ってきて調べて、調べた後に実際に田植えをやったり、この前は稲刈りをしたりという

新聞記事ありましたけども、ほかにもね、お米に関する調べ学習以外にも図書館を使ってクロムブックも使いながら、それ以降やっている例というのはあるのですか。
○馬渕学校図書館司書
　クロムブックを実際に図書館に持ってきての授業は、私はそれしか見ていないです。ちょっと今、コロナ対策で座席を間引いていまして。６人掛けのテーブルに、今、３人しか座れない状態です。なので、１クラス全員入らないというのがちょっと問題で、それで本だけ借りていって教室でクロムブックと本を使ってやっているよというのは聞いています。
○河原﨑教育長
　はい。ありがとうございます。
○髙田教育総務課長
　ほかにはいかがですか。では、御前崎中学校の報告をお願いします。
○中嶋学校図書館司書
　御前崎中学校の報告をします。令和２年度の実績は2.6冊になります。平成29年度から順に見てみると、平均1.5冊、1.8冊、2.3冊、2.6冊と、少しずつではありますが増えています。小学校に比べると、かなり貸出しの冊数というのが少ないので驚かれるかと思いますが、実際に中学生の様子を見てみますと、みんな文庫本にカバーをつけて持っています。やはり中学生ぐらいになると、誰にどんな本を借りているのかを知られたくない。自分の趣味の本を読みたいけれども、それは秘密にしておきたいという気持ちが強くなるのは当たり前だと思います。そういった中でも図書室に来て本を借りている子たちは、一部ですが、かなり好きな子もいます。アスパルが好きなのでアスパルまで行って毎週借りているという子ももちろんいます。アスパルまでに行くのはちょっと遠いので、図書室で良いという形で図書室に来てくれる子もいます。その来てくれている子たちなのですが、小学生のときに関わりを持った子がほとんどです。たまたま東小学校から御前崎中学校に入学した生徒、それから御前崎崎小学校に以前２年間いたことがあるものですから、そのときの５、６年生だった生徒が主に来てくれ、仲の良い他の生徒を連れてきてくれたりと、中学生の気持ちというのもわかりますので、中学に入って、全く知らない司書がいるところに、校舎の角にありますので、そこに入っていくというのは、少し別の意味で勇気が必要になるということなのかもしれません。来ても借りずに、本だけを物色して帰って行く子たちももちろんいます。中学校ですので、やはり教科担任制ということで、それぞれ専門の先生がたが見てくれていますので、授業への支援の方法も変わってきます。全部の先生に、小学校のように全員の先生に使っていただくという声掛けはしていません。必要なときにお声をかけていただくようにしています。昨年度は、国語、社会、理科、家庭科の先生が主に利用してくださいました。授業の並行読書、あるいは調べ学習という形で支援に入らせていただきました。中学校は朝、月曜日から木曜日に朝読書の時間を設定、そして金曜日は新聞を読む時間を設定しています。実際に図書室では本は借りていかないけど、自分のお気に入りの本をいつも持っていますので、それを読んでいるということで、不読者というものはいないです。御前崎中学校は３年前から、週に２日、支援に入ることができるようになりました。週に２日入れるようになりましたので、小学校と同じようにスクールプロのデータを直さなければいけないと思っていて、そこから始めました。データベースがなかなか完了していないので、実際にこういう本が欲しいけれどもという急な対応が出来ない状態にありましたので、データベースの完了を目指して、図書室、王滝コーナー、それから職業コーナー、３階にあります。そして会議室にある蔵書については、データベース化を完了、今年の夏休みに蔵書点検、１回目を実施しました。先ほど教育長からお話がありましたが、図書標準に少し足りないぐらいの冊数があるとデータ上はなっていたのですが、実際に蔵書点検をしていましたら、2,000冊以上の本が行方不明ということで、リストを見るとやはり古いものでしたので、廃棄処理をしないまま、リサイクルに回されたと思われます。そのあと、今、学校の準備室、強化準備室などを探して、200冊ほどの本を見つけてきましたが、まだ、どこかに隠れているはずなので、少し頑張って、あと、東小の場合は２年後、東小をやって、御中をやって、次に東小をと、蔵書点検も交互に行っていきたいと思っています。来年、再来年には、ちゃんとした実数を出したいと思っております。それから活動についてですが、昨年度は図書委員さんの活動なども準備途中で、コロナの関係で中止になってしまい、大変残念な思いをしました。ボランティアさんとの連携ですが、御前崎中学校は、牧之原市の司書の方が、中心になって活動してくださっています。御前崎地区のボランティアの方も、何名かいらっしゃるものですから、アスパル

で伝えていただきました、読み聞かせボランティアの研修会に参加させていただき、情報を交換させていただきました。それから市立図書館との連携ですが、アスパルさんで作品を飾ってくださることがあるのですが、やはり、中学生にとっても大きな会場での展示というのは励みになりますので、これからもお願いしたいと思っています。以上です。
○髙田教育総務課長
　ありがとうございました。今の報告について何か御質問ありますか。
○河原﨑教育長
　中学生はね、なかなか利用が伸びないというか、先ほども自分の読んでいる本は知られたくないというお話だったのですけど、図書館に行く機会がね、まず少ないというか時間がなくて、これ想像してみると、朝登校して、恐らく始業前は朝読書があって、教室にいる昼休みは給食食べて、あと委員会活動とかがあると昼休みが終わってしまい、放課後は皆部活に行って。下校時間も決まっているので、ある程度の時間になったらもう今度は校外に出なきゃいけないとなると、中学生は一体いつ図書館に行く時間があるのだろうなと思うのですけれどもね。実態としてはどうなのでしょうか。
○中嶋学校図書館司書
　実態としては、お昼休みの 15 分しか実際には貸出しが出来ない。私が居る日は、来ていいよといつも来ている子には言っているので、10 分間の休みの間に、移動教室もありますので、すごく急いで来てくれる子もいます。ただ、本当に限られていまして、中学校の場合は実際に利用したのが、昨年度は 120 人だけでした。図書室の使われ方としては、社会科や国語の時間に図書室で授業をしていただくということも、年に数回はあるのですが、やはり小学校とは全く違っていまして、主に使われているのは、放課後、３者面談を待つ時間に、勉強させてもらう。真面目な子たちなのですね、御前崎中学校の子たち。来ると、早速テキストを開いて、学習を始めます。ちょっと疲れたらね、本も読んでいいよと言うのですが、たまに見てくれるかなという感じです。昨年度は、隣に岬という部屋がありまして、そこに別室登校のような形で来ている生徒さんたちが３、４名ほどいまして、担当された先生と一緒に１日に３時間、４時間という形で、今使ってないから大丈夫だよねという感じで来ては、ここで数学の勉強を一緒にしたり、美術の作品作りをしたりとか、そういう形で使われたことがあります。本を購入してもやはり使われる回数が少ないので、もったいないという事もあって、電子書籍を考えたこともあるのですけれども、中学生はなかなか借りる時間が無いので、電子書籍を導入してくという話がかなりいろんなところでも出ているそうなのですが、大きな動きが必要だということと、学校の１万冊近い蔵書数の中で入れられたとしても、100 冊ぐらいになりますので、今後そういうことをどうしていくのかというところを、私も今、勉強中です。また、教えていただければと思います。
○髙田教育総務課長
　ありがとうございます。他にはいかがですか。それでは最後の報告、森田さんから浜岡中学校の報告をよろしくお願いします。
○森田図書館司書
　おはようございます。浜岡中学校の学校司書の森田彩子と申します。先ほど教育長の説明でもしていただきましたが、今年度からアスパルから派遣されまして、浜岡中学校の学校司書となりました。着座にて説明させていただきます。アスパルでの勤務は今年で３年目となります。浜岡中学校のメディアスペースについての説明ですが、令和２年度と令和３年度のことについて、御説明いたします。まず、令和２年度の実績ですが、仮校舎のため、冊数についての実績はありません。学校全体での多様な読書指導の展開ですが、朝読書や学級文庫、国語の授業、お薦め本の紹介、学校図書館連絡会、ボランティア団体による読み聞かせがあります。取組と効果につきましては、学級文庫や朝読書、授業や図書書新聞で、教員や図書委員から本を紹介してもらうことを通じ、普段読むジャンル以外にも、生徒が興味を持つようになりました。課題としては、それぞれの生徒が面白い本を読んでいるにもかかわらず、それらが生徒同士で余り広がっていないことが課題となっています。次に、学校図書館の読書環境の充実についてです。こちらも令和２年度は、学校図書館がなかったため、実績はありません。後ほど令和３年度の説明をさせていただきたいと思います。次に、読書への関心を高める活動の推進です。毎日の朝読書、学級文庫、ブックトラックでの職業の本を廊下へ設置したことが、令和２年度ではありました。朝読書により、生徒が落ちついて、朝の時間を過ごせるようになりました。また、各クラスにおいてある学級文

庫で、朝読書で読書以外の活動をする生徒がいなくなりました。図書館が無い分、学級で読書活動が広がり、廊下に本を置いたことで、普段は学校図書館に行かない生徒も、本に触れることが出来ました。課題としては、今年もそうなのですけれども、学級文庫の交換時に紛失本が数冊ですが発生しまして、今後、委員による管理を徹底したいと思っております。次に、同世代に発信する読書活動への支援です。こちらは図書委員による図書新聞の作成がありました。今年度も、６月頃に図書委員によるお薦め本の紹介ということで、図書新聞の作成をしました。こちらの取組と効果につきましては、生徒の文字で書かれることにより、興味を持って、新聞を読む生徒が多かったです。生徒同士で、同級生がどのような本を読んでいるか、知る機会にもなりました。課題としては、こちらの新聞に紹介するほうも自由に好きな本を紹介するという形にしたため、学校で購入していない本もあり、すぐに提供出来なかったことです。次に、学校で活動するボランティア団体との連携と支援です。現在、浜岡中学校ではボランティア団体による読み聞かせを行っております。読み聞かせを通じて、生徒が登場人物に心を動かしたり、自分の心と向き合ったりする機会が増えました。令和２年度はコロナ対策により３年生のみ読み聞かせ月間を設けることが出来なかったことが課題です。最後に、市立図書館との連携につきましては、年２回の連絡会等、授業で使う資料の借用がありました。この授業に使う資料の借用により、教員の教材研究に役立つことが出来たということです。特に、初任研の資料として役立てることができたという意見がありました。連絡会では、図書館の活用方法について、口頭で説明を聞き、心的距離を縮めることが出来ました。学校としての借用が出来なかったので、積極的に活用していくことが令和２年度の課題だったのですが、今年度、私がアスパルから派遣されて、先生たちが積極的に声をかけてくださり、授業支援としての資料を、アスパルから３回貸出しをしております。次に、別紙の資料、こちら、写真の資料を御覧ください。こちらは浜岡中学校、学校図書館の今年度の様子です。すみません、１点訂正があります。括弧令和２年度とありますが、こちらを令和３年度と、訂正をお願いします。申し訳ありません。１ページ目の写真ですが、こちら、開館までの様子を写真で記録しております。時期としては、今年の４月から７月の様子です。上記の写真のとおり、初めは本の入った段ボールがたくさん積まれている状態でした。その段ボールを中身ごとに分類で分けて、その分類の棚まで段ボールを運ぶ作業から始めました。段ボールの数もたくさんあったので、この運ぶ作業というのはとても重くて大変だったのですが、図書委員の方たちと、有志のボランティアの子供たちがたくさん来て、手伝ってくれました。真ん中の写真に段ボールと新聞がたくさん置いてある写真があるのですけれども、こちらも、美術部の生徒や運動部の生徒が来て、きれいに片づけてくれてとても助かりました。次に、段ボールを運んだ後に、その中から本を出して、棚に並べる作業をしました。本の背に貼ってある分類番号のラベルを確認してもらいながら、生徒に本を棚に並べてもらいました。この並べる作業によって、本には分類という住所があって、それぞれの分野に本が分かれて、図書室には本があるということを、生徒に知ってもらうことが出来ました。では次のページを御覧ください。写真のとおり、大勢の生徒が手伝ってくれました。手伝ってくれた生徒が、次の日に別の生徒を呼んできて、日に日にボランティアの数が増えてきたと思います。驚いたのは、こちらが声をかけなくても、「先生、今日やること何かある」と、自分たちで主体的に手伝ってくれたことが、驚きでした。そのため、予定よりも早く、メディアスペースの本を並び終えることが出来ました。写真にはないのですが、夏休み前には、リサイクルブックフェアというイベントをやりました。このイベントは、本の破損がひどいものや、情報が古くなって価値がなくなった本を除籍して、その本をただ捨てるのではなくて、欲しい子がいたら持ち帰ってもらうというイベントです。1,000 冊以上の本が出たのですが中央のカウンターに並べて、昼休みに生徒や先生に本を見てもらって、欲しいものがあれば、家に持って帰ってもらいました。特に何冊までだよという制限を設けなかったのですが、半分ぐらいの数の本がなくなって、すごくとても反響がよく、たくさんの本を生徒たちが持ち帰ってくれました。正確な数はわかりませんが、小説以外にも、古い図鑑や絵本、実用書など、様々なジャンルの本をもらって帰る子がありました。ふだん本、読まないのだけれども、図鑑とか、車の本とかあると、聞かれたこともありました。あと、ただならもらって家で読んでみようかなという子もたくさんいました。イベントをやった後は、夏休みに蔵書点検をやりました。こちらも浜岡中学校スクールプロという、プログラムシステムを使って本を管理しているのですが、やはり蔵書点検をした後で 3,000 冊ほどの本が不明本として上がりました。内容を見てみると、2005 年に受入れをした本が多くありましてこの 2005 年というのは、システムをスクールプロに変えた年

だったので、恐らくシステムを変えたときに何か不具合があって不明になった本ですとか、一冊の本に対して、６冊から７冊ぐらいのデータが同じように入っていたので、誤って登録したものもあったのかなと思われます。現在、正式な数としては、１万冊ほどの本が、浜岡中学校にはございます。蔵書点検明けはですね、次のページを御覧ください。こちらメディアスペースの貸出しを開始した様子が、載っております。９月末から貸出しを開始しまして、図書委員の方たちに昼休みに来てもらって、本の貸出しと返却をしてもらっています。貸出数は、まだ正式に出していないのですけれども、少ない日で５、６冊、多い日で15、６冊ぐらいの貸出し数がありますが、やはり小学校と比べると、貸出し数はあまり多くはないかなというのが現状です。ただ、メディアスペースには椅子やソファーなど座るところがたくさんあるので、昼休みの生徒の憩いの場としておしゃべりに来る生徒がいて、この本面白そうだねと、借りないけれども本に興味を持ってくれる生徒がたくさんいます。次に真ん中の写真が食品ロスの特集を設置したときの様子です。市役所の環境課とコラボをして、食品ロスの本を置いて、ちょっと資料も置きました。今はディズニーの特集と、国語の教科書に載っている本の紹介の特集を行っています。中央のカウンターは、移動教室で生徒が頻繁に出入りする通路側になるものですから、本の表紙を見せて、ふだん本に興味がない子も、そんな本もあるのだと興味を持ってもらうように、特集をこれからも頻繁に変えていきたいと思っております。またですね、私がアスパルから来たことで、「先生この本メディアスペースにないけど、これから買って。」という子が来たときに、「今すぐ買えないけれどもアスパルにはたくさんあるよ」というふうに、ライトノベルの本ですね、「読みたいけどありますか。」と聞いてくれた子に「アスパルにはたくさんあるよ」と言って、後日来てくれたということもありました。私がアスパルから来ているものですから、アスパルのほうも同時に生徒に紹介をしていきたいなと思っています。説明、以上です。

○髙田教育総務課長

はい、ありがとうございました。今の報告で何か御質問はございますか。

それでは全部で７校、今、報告させていただきましたが、全体通して質問ありますか。

最後に一言ずつ皆さんからいただきますので、御質問を先に伺ってよろしいですか。

１つ聞いてよろしいですか。各学校で１番借りている子は年間何冊ぐらい借りていて、１番少ない子は０冊だと思うのですが、多い子というのは年間何冊ぐらい借りていますか。

○森田図書館司書

ちょっとその辺は余り気にしてなかったので、ちょっと数はよくわからないところであります。

○髙田教育総務課長

どこか、わかるところはありますか。

○中嶋学校図書館司書

御前崎中学校は、１位の子は約 70 冊、小学校は 100 冊以上です。

○髙田教育総務課長

北小学校とか御小とかの少ない数のところで、例えば 120 冊借りますよという子が３人ぐらいいると平均冊数が上がります。第一小だと同じだけいても、借りない子が多いと平均冊数が落ちます。そういうところがこの数字の差に出ているのかなという想像なのですけど、そういう感覚がありますか。それともみんな同じ平均冊数に近い数字で、みんな大体借りているというイメージですか。

○馬渕学校図書館司書

そうですね。北小はどのクラスも、努力目標の 25 冊を大きく超えているので、１年生から６年生までたくさん借りていますね。パソコンの貸出し数はちょっと今わからないのですけども、読書ファイルというのを使っていて、１枚の紙に読んだ本を 10 冊つけるのですけれども、それが、今、多い子だともう 300 後半のプリントがたまっている状態で、かなり多い冊数を読んでいると思います。大きい学校だと、休み時間のうちに借りたい子が、本を借りられていないのではないかと思います。自分ももともと第一小にいたので、「本を借りたいけど、もう時間がない。借りられなかった。」という子が結構いました。なかなか大きい学校は難しいかなと思います。

○杉山学校図書館司書

第一小で言いますと、今、確かに高学年になりますと、今年は特にクロムブックの導入で、利用が減った子もいるのですけれども、１年生が特に授業の中で、先生が一緒に連れてきてくださって貸出しをする。そういうことが定着していくことによって、１年生の利用が２年生の利用と、

こういう感じで増えているので、今年はその１年生が、特にベストリーダー100 何十冊という感じで今年、今までの 11 月までにそれぐらい借りてくれています。なので、そこで確かに多く借りることが突出しているという状況ではあると思います。同じように白羽小学校ですけど、１年生、やっぱり授業で先生が連れてきてくださって、貸出しを定着させていくということの取組が行われています。やっぱり同じように、突出した子によって引き上げてもらっているという状況にあります。

○髙田教育総務課長

はい。ありがとうございました。それでは、皆さんから、一言ずつ感想、御意見等を伺っていきたいと思いますが、その前に、事務局から一言ずつあれば伺いたいと思います。西郷館長いかがですか。

○西郷図書館長

学校図書館司書さんには、学校でいろいろなイベント等を企画していただきまして、大変だと思います。ありがとうございます。報告の中にもありましたように、様々な企画を今年度これからもそうなのですけど、市立図書館ともコラボしていただいて、企画していただいて、そういったことを提案していただいたことによって、図書館の利用者、市立図書館の利用者のお子さんや保護者さんが大変多く来ていただけたということで、大変ありがたく思っております。今後もこういった企画がありましたら積極的に提案していただきまして、連携をしまして、子供読書活動をさらに推進していきたいと思っていますので、また御協力をお願いいたします。以上です。

○髙田教育総務課長

はい。学校教育課長。

○鈴木学校教育課長

はい。学校図書館司書の皆さんが、子供たちが本に親しみやすい環境づくりを毎日やっていただいていて、本当にありがたいなと思っています。現状は、コロナの中で子供たちの生活様式も変わりましたし、今、話もありましたけど、中休みを短縮するとか、子供たちが密になる時間帯を防ぐとかというようなことも、実際にこの９月にあったり、それからタブレット端末の配布をされて、本を見る時間よりタイピングの練習に時間をかけたりというようなことも、今年度は増えてきているのかなと思っています。教育長の話にもありましたけれど、学校の限られた時間の中で、どうやって子供たちが本を手にとる時間を生み出すのかという点で考えると、今の司書さんからの報告を聞いたり教育長の説明を聞いたりしている中で、私は３点ぐらいあるのかなと思っています。１つ目は、やっぱり授業の中でどれだけ活用ができるのか。授業の時間を、図書室という場所を使いながら、どれだけのことができるのかという、それがやっぱり司書さんと学校の先生たちとの関係性、その連携というのはすごく重要かな。それから、２つ目は、やはり浜岡中学校のように、オープンなスペースだったら、いつでも休み時間のときにちょっと手に取ってみようとなるのですけど、ほかの学校はそういうわけにはいかないと思うので。そうすると、子供たちが図書室に足を運ぶという手間、機会を逆にして、出前をどれぐらいできるかという発想も大切なのかなと思いました。３点目は、先生が本を読みなよと言うよりも、友達同士で本を読みなよのほうが、きっと子供たちは本を手に取る機会が多いので、児童会だとか生徒会活動とかとうまく連携をして、子供たちが本に親しめる環境づくりを、私たちも支援していきたいなと思っています。以上です。

○髙田教育総務課長

続いて、社会教育課長、お願いします。

○小野田社会教育課長

はい。ありがとうございます。いろいろお話聞かせていただいて、学びの提供という意味で、いろいろ連携ができるのかなというのをちょっと感じました。特に市の歴史であるとか、文化、そういったものについては、社会教育の持っている文化的なもの、歴史的なものの提供が出来て、そこでまた協力が出来たらなと思います。

○髙田教育総務課長

はい。それでは私のほうから。第一小の図書室については来年度、エアコンを入れるような算段で、今、予算取りをさせてもらっています。通るか通らないかは後の話になりますが。教育総務課としても、学校の図書館環境の整備についてはしていきたいと思っています。御小は、オー

プンスペースのためエアコンの設置は出来ませんが、その代わりに、家庭科室へのエアコンを設置して、暑いときにはそちらを開放するような形で学校と協議を進めていますので、ちょっとその辺上手に使っていただければなと思います。今回の資料につきましては、そろえていただいてありがとうございました。これについては、子供読書活動推進計画の学校のところには、この部分を学校の中に書いていただいたということになりますが、この中で１つ、教職員を対象とした各種研修や講座をやりますよということが中に計画されていますので、この辺ももう少し踏み込んでやってもらったら、もう少し先生から図書館に進んでいくのかなということを感じました。以上です。それでは部長、お願いします。

○長尾教育部長

資料の準備等いろいろありがとうございました。皆さんから今お話を聞きまして、子供たちの興味を引くような様々な取組を考えてやって、少しでも図書室のほうに足を運んでもらい、本を手に取って、読んでもらうという取り組みが見えました。ありがとうございます。先ほどの高田課長からも質問のありました、各学校での冊数について、興味のある子は結構厚い本を読んでいるので、ページ数が多い１冊と、薄い１冊、これ見たらページ数で少し考えてもいいのかなっていうちょっと、内容のものもあったのですがその１冊の取り方が、受け止め方が、いろいろあるかなと思います。最初、御前崎小学校の（イ）の、取組と効果というところに、「読書が苦手な児童も、楽しみに図書館に通ってくれている。」ということで、本が嫌いではなくて、苦手な児童という形の、この書き方っていうところも良いなと思いました。決して嫌いではないっていうところで、また図書館に通ってもらえるような取り組みを行っていただいているのかなと思います。それでまた先ほどの冊数じゃないですけど、他の統計ではよく、０冊から 50 冊以上とか、０冊、10 冊、何冊が何人とか何%、と棒グラフで作成して、そんな形で１人が大体年間 10 冊とか 20 冊とか、何冊くらい借りている人が多いのかというのが、分かるような資料もあると良いかと思います。とにかく、取組としてはいろんなものが、コロナ禍で日々見えてきましたので、また、今後も特に図書館司書さんがいますので、その連携をとりながら進めていただきたいと思います。ありがとうございます。

○髙田教育総務課長

それでは教育委員さんから、１人ずつからお話を伺いたいと思います。最初に、増田委員、お願いします。

○増田委員

すいません。今日教育長さんの話を聞いて、まず市の取組として、園児に対する毎日の読み聞かせは、非常にいいなあと思いました。やはり、読書は小さい段階から、園の先生やおうちのお母さん、お父さんに読み聞かせをしてもらって親しみが沸いて、読書習慣がついているのではないかと思っています。大変、うれしい取り組みだなあと思っています。それから御小、建築されて 15 年ぐらいたちますけども、建築、製図段階に関わった人間として、図書館に空調を入れる話は当時全然ありませんでした。オープンスペースで、子供たちがすぐ読めるねっていう、すぐ本を取れるねっていう形で、我々も賛成して、あそこの図書館スペースとしています。こんなに暑いと大変だな。また冬は私も、校長になって行ってから、冬は寒いなと感じました。それから学校図書館司書さんを、この御前崎市では配置してくださって本当にいいなと思っています。この写真を見ると、図書館のスペースがきれいになって華やかにになって、子供たちが入りやすい感じになっているなと思います。それと、御前崎市はなかったのですけど、司書教諭が大体、図書館担当になって、大体その人たちは学級担任もやっています。そうすると、いろいろと図書館の仕事に関わる時間がないのですね。だから、御前崎市じゃないですけど私が勤めたところでは、昼休みも曜日を決めて開館するという形、パソコンで全部貸出し管理しているのですが、後でチェックするとパソコンのやり方が違っていたり、曜日によって開館したりという形になって時間がとれない。そうするとやっぱり子供たちの本に触れる時間が少なくなって、でも御前崎市ではこれだけの方を配置してくださっているので、子供たちが本に触れる時間が大変増えてきて、いいなと思っています。そして、管理職だった立場で考えると、教諭、担任が、子どもたちと関わる時間が増えて、ありがたいなと思っています。すいません。以上です。

○髙田教育総務課長

ありがとうございました。原崎委員、お願いします。

○原崎委員
　ありがとうございました。御苦労をすごく感じました。学校内の立地によって、図書室が利用されるか、されないかという部分もすごく分かりましたので、御前崎中学校に関しては、御苦労なさっているのだなということはすごく感じました。私も訪問しまして、閉鎖された空間だなと思いますので、今日は大変よかったと思います。これからも頑張っていただきたいと思います。あとは、司書さんたちの子どもたちが喜びそうな図書館の飾りつけは、私も仕事上、こういう飾りつけをつくったり、やっているのですけども、手書きでやったりとかしていますが、なかなか時間がかかります。ぽんぽんとできるものではないと思います。ありがとうございますの一言でした。あとひとつ、読書、読み聞かせの持つ可能性というもので、今現在、学力の問題と結びづけていることが多いと思うのですけども、私のところには職業体験で、子どもたちが来ていました。ここ２年コロナで来ることが出来ていないのですけども。そのときの仕事としては、掃除から始まるのですけども、ディスプレーをやったり、ポップを書いてもらったりしています。最後の仕事として、自分で考えた商品につけるポップを、子供たちに書いてもらいます。大きさも自分に選んでいいよっていうことで、言葉も確かに得られます。見本も見せてやるのですけども、やはりここの部分で、豊かな感受性、想像力というものは持ってない子は手が止まってしまいます。例えば、１つ靴下のポップを書く時に、「靴下何円」と書くよりかは、例えば「毎日履くのが楽しくなる靴下」という言葉１つをくっつけると、お客さんには目を引きます。その言葉１つが、やはり考えられる子と考えられない子とがいて、すごく時間がかかる、手助けが必要な子もいます。なので、本を読んで、文字を頭に入れる、いろんな言葉が頭に入っているということで、このような、１つの仕事にも役立っているということで、皆さんには勇気を持っていろんなことを子どもたちに教えてあげてほしいと思います。ありがとうございました。
○髙田教育総務課長
　はい。野口さん。お願いします。
○野口委員
　私のところは小学生と中学生がいるのですけど、中学生の息子は本を借りてきたことはないです。朝の読書のために文庫本を１冊持っているのですが、それは姉から勧められて面白いよといった１冊を、この１年半ずっと進んでいない。そんな感じで、どの本を読んでいいかわからないと言っていますので、教室の中にちょっとでも読めるような本があれば、今日はちょっとこれ読んでみようかなとなるのかなと思いました。あとは、習い事をしているので隙間時間がちょこちょこあるのですけど、そのときに本を借りていたものを持っていくと汚してしまうのではないかとか、うちの場合は外になりますのですごく心配で、そういうことを考えると電子図書になると、自分の媒体でいつでもどこでも隙間時間で読めるというのは、紙でしっかりこう、どうだったかなと読むのもすごく素敵だと思うのですけど、せめてそれぐらいだったらできるので、電子図書がこれから進んでいけばいいなと個人的には思いました。今後は、いい本をどんどん増やすというよりはやっぱり場所とか読むきっかけ、動機付けとか、借り易さとか、そういう環境面、ソフトの面とか、そういうところに力を入れていくのが大切なのだなというのがすごくよくわかりました。うちの場合は、１年生も全然本を読書ファイル、読書カード進んでなくて、20 とかなんですけど、『ミッケ！』とかを借りてくるのですね。そうすると『ミッケ！』１冊も終わらない。１ページを２人で１時間ぐらいかかってしまうので、なかなか増えていかないというところもあるので、30 分で１冊にしていいよとか言ってくれると、ハリーポッターにはまってしまったときも１巻がなかなか終わらないということもあったので、冊数というよりは、そういう考え方も助かるなと思いました。あとはすごく忙しいので、夕方まで仕事していると毎日読む時間はもちろんないので、子供自身が「学校で読んでいてこれすごく面白かったから、お母さんともう１回読みたい」とか、「読みたい」と、そこら辺まで持ってきてくれると、おうちでも読めるのですけど、嫌がる子供に、「本、読むよ」みたいな感じで読書の時間となると、何のために読書やっているのかみたいなところもあるので。ただ、冊数をこなすというだけじゃなくて、楽しく読めるという工夫をたくさんしていただいているので、ありがたいと思います。以上です。
○髙田教育総務課長
　ありがとうございました。松林委員、お願いします。
○松林委員
　今日はどうもありがとうございました。本当に各学校ね、１人で数校回ってもらって、読書環

境、読書指導、その手助けと言うのですか。整えてもらっていて、皆さんありがとうございます。さらにね、このようなまとめをして、ここで発表してもらうことですね。本当に大変な思いをされたのではないかなと思います。先ほどもちょっと質問で、司書教諭さんがという話をちょっとさせてもらったのですけど、学校の中で読書指導とか、読書環境を整えるというのは、やはり教員がこうやっていきたい。その上には学習部とか、校長とか管理職とか、そういうようなものからおりてきて、こうやって進めていきたい。多分それを手助けしてくれる、学校図書館司書じゃないかなと思うのです。そういった中で本当に大変な思いもして、こうやって発表をしてくださったのですが、その司書教諭、教員が、どこまで自覚しているのか。教員がやるべきことかなと自分は感じたのですけど、これをまとめて、課題がとか。それなのに、こうして、司書さんがやってくださっていると本当にありがたいな、大変だっただろうなと感じました。ただ、先ほども増田委員さんからお話がありましたけど、多分学級担任が担当しているのですから、非常に大変だということはあるのですけれど、やっぱり学校全体のことで経営に当たっていくというのは、教員がやっぱりリーダーとして先頭に立って、それを脇でサポートしてくれるという立場じゃないのかなと私は聞きながら感じました。あと、御小のスペースで、ここもそうなのだと思うのですけどね、ぜひ、ボックス型とかそういうようなエアコンみたいなものは入らないですか。

○髙田教育総務課長

ボックスですか。閉鎖が出来ないので、高いところから低いところに流れるっていうのと同じで、温度が保てない。かけっ放しになってもやっぱり、全館が冷えなくては意味がない。ここの場合は全館が冷えるようになっていますので、ここはいいのですけど、御小の場合は、そういう空間になってない。全て冷気が流れていっちゃうという事でちょっと無理です。

○松林委員

例えば体育館のようなところに置いてあったりするじゃないですか。

○髙田教育総務課長

スポットクーラーということですかね。スポットクーラーみたいなものなら置けるかもしれないですが、それがちょっとどのぐらいのものなのか。かわりに、今同じフロアの教室を開いているところを使うということで、そちらのほうにエアコンを入れさせてもらってということで、今学校とは話しをさせてもらっています。

○松林委員

せっかく本に親しむまちということで出しているのですから、いい環境の中で本に親しんでもらいたいなという思いから、何とかならないかなと思いました。ありがとうございました。

○髙田教育総務課長

ありがとうございます。では島田さん、お願いします。

○島田委員

今日はありがとうございました。各学校、その学校の子供たちに合った、読書活動計画がなされているところが本当に、資料からも分かるようにすごいなと思いました。あと、今日、皆さんとお話ししていて、すごく素敵な方たちで、皆さん意欲的で、すごく嬉しいなと思いました。資料にもたくさんありましたけども、お話を聞いていても、私もわくわくするような環境を皆さんが整えてくださっているものですから、子供たちもきっと図書室に行くということは、わくわくするのではないのかなと思いました。東小や浜中は、特集コーナーを設けているということだったのですけれども、本屋さんに今行っても、食品ロスとかＳＤＧｓとか、今、話題になっていたり課題になっていたりする社会問題なんかはね、本屋さんに最初に入るところにあったりとか、そういうこともあるので、各学校とかでそういうコーナーを作っていただいて、そういうことに触れるっていうこともすごく大事でいいことだなと思いました。私は大人も一緒に本を読むことがいちばん大事なことだなと、いつも思っているのですけれども、小さい子のみで自分の子供が小さいときから一緒に本を読むこと、子供がここで読んでいたら私も読むという感じでやっていたというか、好きだからそれをやっていたのですけども、中学生になったときに、担任の先生が、この本読んでみなよと本を貸してくれる先生だったのですよ。その本がすごく刺激的で、自殺とかいじめとか、悩んだときにどうするかとか、ちょっと深い本だったのですけれども、すごい子供なんかショックじゃないけど、こういうことってあるのかと、いじめの後みたいなお話とかね。そういうのがあるという話を聞いたときに、本当に読書っていうのは体験だなと思ったのですよ。疑似体験といいますかね。大人から言われてもわからないことを本が教えてくれるというか。悲

しいことも、うれしいことも全部教えてくれるということがすごく大事で、中学生の先生方も時間はなくて大変なのですけど、少し一緒に本を読むという時間なんかがあると良いなと思いました。それで、教育長の資料にもあったのですけども、本を読まない子が増えているという話だったのですけども、ちょっと前なのですけれども、新聞で見たのですが、読書をなんでしないといけないのという大学生がいるという投稿があったのですけども、それともう１つ、今度は保護者ですけれども、読み聞かせが面倒、どうしてやらなきゃいけないの、自分の時間を使って子どもに読み聞かせをするというのはなぜなのかというニュースを見たときにすごいショックでそのことを覚えているのですけども、そう思う人もいるのだな。その大学生はちょうど教育学部に通っていて、将来は先生になるというのですよね。それもまたショックだったのですけど、そんなこと、本を読んでいるよりも勉強をやっているほうがずっと良いっていう話を読んだときに、本当にこの人は小さいときから狭い世界の中に生きてきたのだなっていう、ショックというか、覚えているのですけども。本当に御前崎市はね、そういう人もいるかもしれないけども、御前崎市としては、アスパル始め小学校も読書に関してこんなに意欲的に取り組んでいる町だと思うので、幸せだなと思うし、当たり前じゃないのだなというのは、すごく感じました。だからこれからも、そういうことを大事にしながら、子供たちに本の大切さを伝えていってくれたら、すごくうれしいなと思いました。以上です。

○髙田教育総務課長

はい。それでは竹田さん、お願いします。

○竹田委員

今日は、子供たちの読書環境へ本当に御尽力をしてくださって、ありがとうございます。とても感銘いたしました。私は東小に出入りさせていただくことが多いものですから、あと東小の図書室の壁に、4 月から 10 月までに 35 冊以上でしたね。読んだ子供たちの名前が掲示されていて、あと読破賞って、これ何だろうと思いましたが、学年の必読書を全て、読み終えましたっていうことで賞状があって、そういう子供を笑顔にする、子供のモチベーションを上げるっていうそういう種蒔きというのは、本当に多ければ多いほどいいと思いました。で、皆さんが私の中で、読書郵便コンクールとか、親子読書ビンゴとかね、私も、こういうこと取り入れたらどうなのだろうなと、どれがヒットするかわからないけども、そういう情報交換がここで出来て、そういうのを取り入れてみようかなというきっかけになれば、この会議もすごくよかったのではないかなと思います。先日、高校の国語の先生にお会いしましたら、今年から、子供の読書感想文はやめましたと。なぜかと言ったら、スマホで本の題名を検索すると、感想まで出てきてしまう。それで、ほとんどの子が同じ感想だという、それでコンクールを出す先の県からも、これがオリジナルであることを先生が確認してくれと言われたと。そんなことはとても無理だし、だから、何のための読書かわからないということでやめたのだよということをお聞きしました。そのときに、やっぱり子供を本好きにさせるきっかけづくりが、とにかく１番大事だねという中で、やっぱり出てきたのが読み聞かせでした。それで、本当に読み聞かせというのは私の中でもオーダーメイドで、肉声のスキンシップ。これが、読み聞かせだと思っています。今日、東小の中でも３年生が１年生への読み聞かせをする。それから驚いたのは、中学校にも、読み聞かせ、そうなのだと言ったときに、やっぱりそういうスキンシップ、お姉さんが私に読んでくれたよ。それから大人の人、もしかしたらおばあちゃんが読んでくれたよ。そういう関わりというのは、とてもいいのではないかなって思いました。それで、そういう時代の流れが、悲しく思ったりもして、その知識の詰め込みとか、暗記だけの、そういう学習の仕方よりも、一昔前の学習の仕方よりも、今はやっぱりそのリテラシー教育、情報を読み取って、それを判断して、自分の言葉で発信していくっていう、そういう教育が大事。自主的な学びが大事になっていくのだなというところに私の中でも落ちついたのですけども、でも、そこでもカギを握るのは、語彙力じゃないかなと思います。自分で判断していく、自分の言葉で発信していくという、そういう語彙力は、やっぱり小さいときから育てていかなくちゃいけないのではないかなと。そう思ったときに、せっかく御前崎市でスクラムですから、幼稚園の先生たちにも働きかけて、皆さんからも読み聞かせの大切さとかね、そういうのを、もっともっとこう発信していってもらえたらいいかなと思いました。とにかく、時代がどんなに変わっても、マインド、心の豊かさだけは、そういうのだけは普遍であってほしいと思います。それを保障してくれるのも読書じゃないかなと思いますし、本当に皆さんは御自分のお仕事に誇りを持って、頑張っていただきたいなと、そんな感想を持ちました。ありがとうご

ざいました。
○髙田教育総務課長
　ありがとうございました。最後に教育長、まとめも兼ねてお願いします。
○河原﨑教育長
　最初に言ってしまったのですけれど、今日はありがとうございました。学校図書館、一般的にヒト、モノ、カネと言われますよね。物というか施設については、どうしても、老朽化している施設の場合には、もうその頃に設計してつくられているものですから、なかなか不便なところは多い。これは建替えなくてはいけないというのもあるものですから、難しいところがあると思うのですが、お金、資料費については、あればあるほどいいわけですけれども、そういう中でも、なるべく確保するようにしていますし、皆様方も意識をして、古い本を廃棄して新しい本をということでね、子供たちが興味を持つような努力をしていただいていると思います。何よりもやっぱり私は人だと思っています。本があって施設があって、そのまま放っておいて使えるかっていうと、それこそどこに何の本があるかもわからない、管理もされていない。何か読書に誘うような仕掛けもないということであると、やっぱりいくら本があっても、ほとんど使われないと思うのですね。おまけに、さっきの話じゃないですが閉まっている日もあると。それだと何にもならないものですから、やっぱり基本はいつでも開いているということと、人がそこに関わっていて、なるべく使いやすい環境にしていくという、そこが大きなポイントだと思っています。皆さんについては、なかなか非常に難しい立場にあって、週に２日または３日ということであるものですから、もう１つは、学校の経営の中にどこまで入っていいのかというところも難しいスタンスだと思うのですね。先ほどもお話ありましたけども、やっぱり、校長がある意味図書館長であると思いますので、校長の方針もあると思いますし、司書教諭、また担当職員が正職員でいるわけですので、そこの人たちの存在もあると思うのですが、先ほどの話で、その人たちもなかなか忙しくて手が回らない。その人たちを待っていると何も動けないわけですし、じゃあ司書さんたちが動けるかと言ったときに、正職員じゃない人が週に２日３日の中で、どこまで自分たちで動いていいのかという、そこの難しさもあると思うのですよね。だからそういう中で、今日の発表も中にもいろいろありましたけど、非常に積極的にね、蔵書の管理もそうですし、子供たちが本に興味を持つような仕掛け等もしていただいて、また新たに調べ学習の比重も増えてきているものですから、そちらのお世話もしていただいているということで、難しい立ち位置にありながら、でも、やっぱり子供たちのことを思うと、積極的に行いてくださる方は本当に必要なものですから、そういう点ではありがたいなと思っています。
　冒頭申し上げましたけども、ここ３、４年と本当に各図書館が整備されてきて、使いやすくなっていると思います。ただ、校長会にも私もお願いをしなきゃいけないと思うのですけれども、やっぱり学校をあげて動いていくということが大事だと思いますので、そういう中で司書教諭と司書の皆さんが中心となって動いていけるという形をぜひこれからとれていければいいなと思いますので、御協力をよろしくお願いをしたいと思います。どうもありがとうございました。
○髙田教育総務課長
　ありがとうございました。これで第１回の御前崎市移動教育委員会を終了させていただきます。最後に互礼を交わしますのでご起立をお願いします。ありがとうございました。